

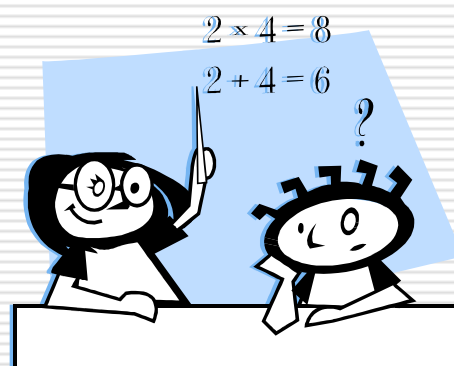
『関数の楽しさ！』



マジシャンのシルクハットか…

「魔法の箱」か？！

とても楽しい世界へご案内いたします！



2004. 8 アクティブSITA勉強会資料

制作: 菊池 剛志

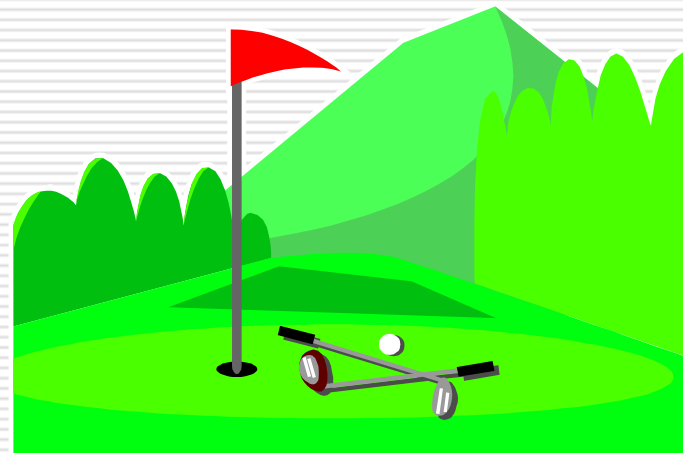
パソコンへの情熱は・・・

関数の楽しさの「とりこ」になったから！

- 私の関数学習暦
「GOLFスコア管理表」に始まる。

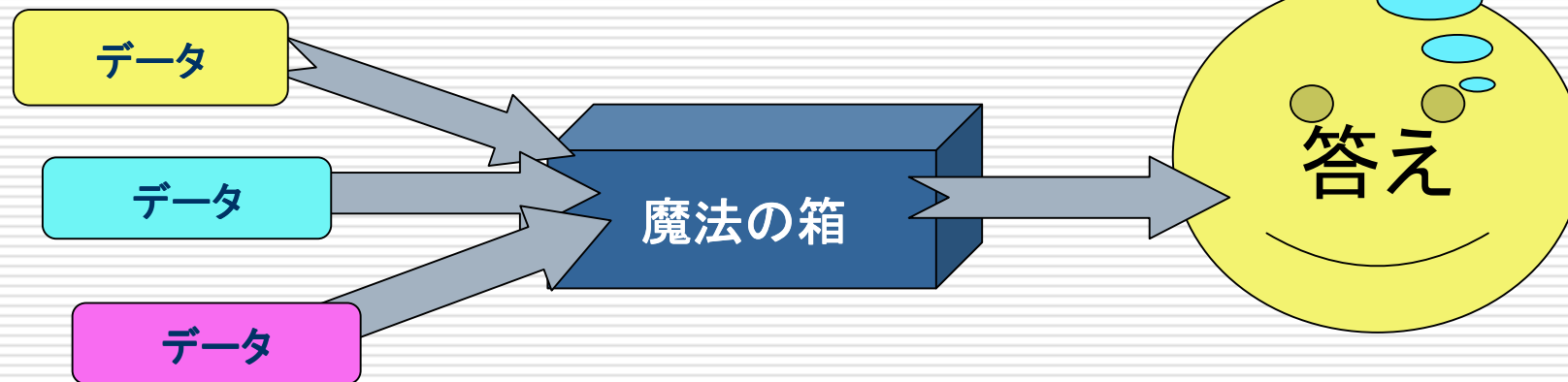
どんな関数を使ってる！

1. IF
2. SUM
3. AVERAGE
4. COUNTIF
5. SMALL
6. LARGE
7. RANK
8. MIN
9. MAX



計算が簡単・速く効率的、しかも正確性が売り！
「関数って何だろう？」

データを流し込めば
「答え」を出してくれ
る魔法の箱



□ 関数を使えばこんなに便利


●セル1からセル10までの合計を足し算すると

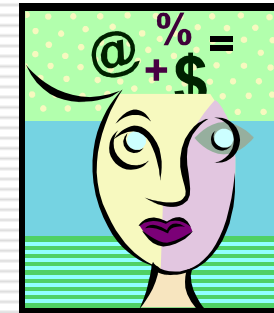
足し算では=A1+A2+A3+A4+A5+A6+A7+A8+A9+A10

関数では=SUM(A1:A10)

「関数の引数」ダイアログボックスを使う！

関数の基本

- 関数の種類
- 答えを表示したいセルに関数を入力する。
- 「関数の挿入」 から「関数の引数」ダイアログボックスを使って入力する。
- 試してみよう！
入力の基本練習
- あとから式を変更するには？
数式バーの関数名をクリック→「関数」から変更する関数をクリックする。

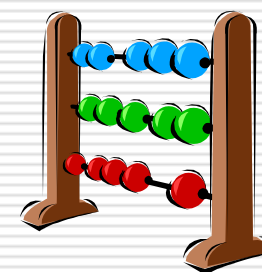


数値の合計を求める

=SUM (合計を出したい範囲を指定)

数学 / 三角関数

- 最も多く使われる関数
- オートSUM(Σ)を使うととっても便利



=SUM(B3:E3)

	A	B	C	D	E	F
1	店舗別売上表					
2		東京本店	大阪店	京都店	千葉店	月毎合計
3	7月	1,245	1,002	988	986	4,221
4	8月	986	998	990	885	3,859
5	9月	1,344	1,011	改装期間	991	3,346
6	店別合計	3,575	3,011	1,978	2,862	11,426
7						

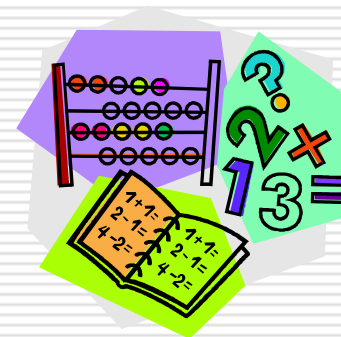
数値の個数を数える

=COUNT(個数を数えたい
範囲を指定)

統計関数

- 指定した範囲の中にある「数値」の個数を数えるのがCOUNT関数です。
- COUNT関数がわかれば主な「統計関数」も一網打尽です。

こんな勉強をして見ましょう！



※COUNTA関数というのもあります。このAはallの頭文字で数値だけでなく文字も数えます。

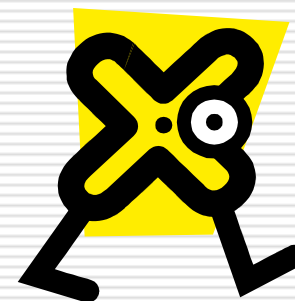
条件に合った,合わないで表示を変える

=IF (条件を指定 , 条件に合致した場合の表示 , 条件に合致しない場合の表示) 論理関数

□ 基本型

=IF (C5 >= \$F\$15 , “合格” , “不合格”)

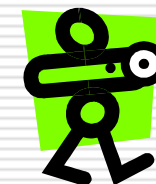
論理式 真の場合 偽の場合



□ IF + AND, OR (ネスト)

=IF (AND(C5=“合格”,D5=“合格”) , “表彰” , “なし”)

論理式 真の場合 偽の場合



□ IF + IF

=IF (C5 >= \$C\$10 , “合格” , IF(C5 < \$C\$11, “補欠”, “不合格”))

論理式 真の場合 偽の場合

テキストの在庫が不足したら不足冊数とメッセージを表示する！

論理関数

数学／三角関数

- 商工会議所の講座で、土田さんにテキスト管理をお願いしております。
- テキストは必ずしも直ぐに入手できるとは限りません。特に安価に購入する場合には2週間ぐらいの余裕を持つての発注が必要です。
- 直ぐに注文できるように配慮も大切です。
- 土田さんに使っていたからこそと思って作ってみました。
- 楽しいものが完成しました。



目的のデータを一覧表から探し出す

検索／行列関数

=VLOOKU (調べたいデータ / 一覧表の範囲 / 表示するデータが左から何番目 / 検索の型 true&false)

□ 何かと役に立つ関数！「商品コード」を入れると「一覧表」から「商品名」や「単価」などを選んで表示してくれます。

□ さあ、実際に作ってみましょう！

□ 実際にこんなのを作ってみた

生徒さんからの要請で作った「支払一覧表」

● FALSEって何？

直訳では「偽り」ですが、VLOOKUPでは「完全一致」の場合に使い

ます。「0」を入力でもOK TRUEは「1」

10784.36
529 ÷ 1
2.719372

条件の合う項目だけを合計する

データベース関数

=DSUM(調べたい
表の範囲 , 合計したい
列の見出し , 条件の入っ
ている範囲)

- 頭に「D」の付く関数はデータベース関数です。
DAVERAGE、DMAXなど12個あります。
- データベース関数は、データベース形式の表
のみで使用可能です。

=DSUM(B3:G18,G3,B22:D23)

売上表の範囲
を指定

合計したい金
額の見出し

条件の入って
いる範囲を指定

抽出（フィルタ）したデータを合計する

=SUBTOTAL(集計方法 . 集計する範囲)

数学／三関数

□ データベース機能の「フィルタ」とSUBTOTAL関数を使って条件にあった合計額を求める。

・例えば

フィルター・モードで抽出した部分の合計を算出したいときにとっても便利です。

SUBTOTAL(9, F6:F35)

条件にあった項目を抽出し集計する

数学／三角関数

=SUMIF(範囲, 検索条件, 合計範囲)

- 合計を求めるSUM関数と条件によって処理を変えるIF関数を組み合わせたSUMIF関数を勉強します。

・契約店別購入金額合計を算出する。

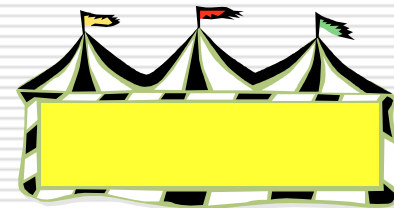
・トップ購入日の売上合計を集計する。



「エリア」と「期間」で集計範囲を変える！

SUM,OFFSET,INDIRECTを組合せ

- 遊園地のアトラクションで、「エリア」別の1週間の入場人員を集計する。



幅は1列

=SUM(OFFSET(INDIRECT(C4),0,0,E4,1))



C4のセルの文字列
をを基準にする

行・列とも0を指定 エリアを指定

=OFFSET(基準,行数,列数,[高さ][幅])

「基準」となるセル範囲からの指定の「行数」「列数」分移動した範囲の高さ(行数)、幅(列数)を指定。ここではC4で指定セルを基準に行数・列数を0、高さはE4で指定した日数分、幅は1とした。

=INDIRECT(参照文字列)

あるセルに入った値からその名前の付いたセルを直接参照することは出来ない。そこで使うのがこの関数。これを使うと、例のようにC4には入った名前と同じ名前を付けたセルが参照できる。

『関数の楽しさを』を学ぶ

おわり

どうもありがとうございました